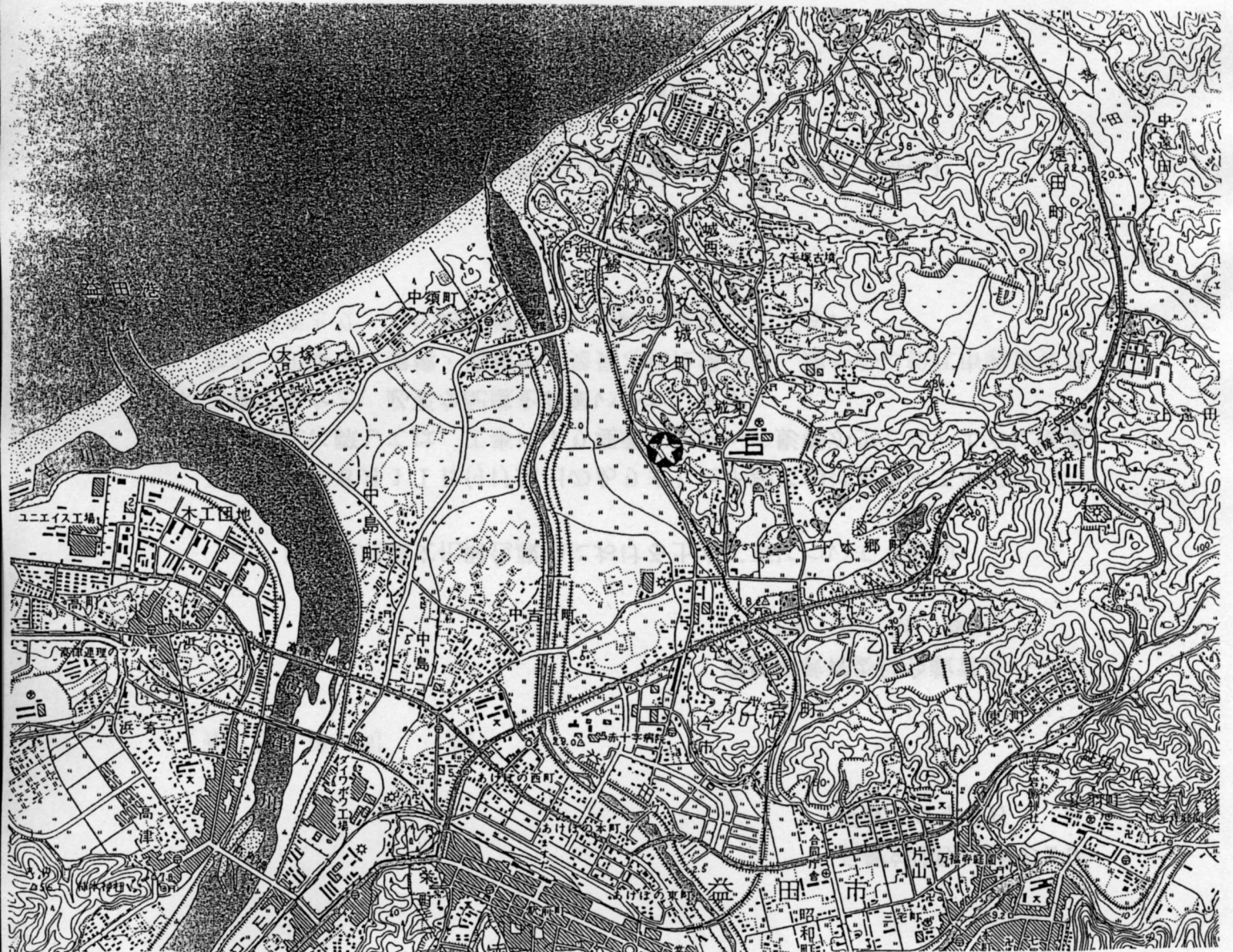


### 3. 調査結果から考えられること

1号墓が弥生時代の墳丘墓であるとすれば、益田市周辺では初めて確認されたこととなります。墳丘墓は一般の人の墓ではなく、地域の人々を統率したリーダー（首長）<sup>しゅちょう</sup>やその家族の墓と考えられますが、今回の発見によって、この地域でもこうした人物がいて、手厚く埋葬されていたと推測されます。この地域における弥生時代の首長や、その墓のあり方を示す重要な資料になります。

また、方形貼石墓はこれまでに丹後地方から石見地方<sup>たんごちほう いわみちほう</sup>にかけての日本海沿岸や中国山地で確認されていますが、本遺跡は最も西での発見例となります。これらの地域の間で同じような墓が造られていることから、共通した埋葬の儀礼・風習があったということも考えられます。



専光寺脇古墳群位置図